

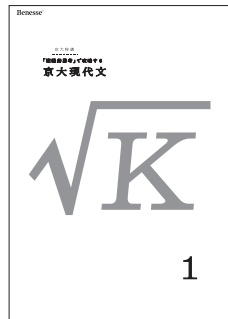
## 京大特講√K紹介

京大入試での合格ライン突破に向けた3か月(3回)完成集中講座。

京大入試ならではの問題の正しい「解法ルート」が身につく、今までになかった京大合格の確実がある。

開始月自由 3か月完成 1講座から

※教材のお届けは、毎月一回お届け(3か月)と3回一括お届け(一部例外あり)を選択できます。  
詳しくは、HPのお申し込み内容をご確認ください。



## 「複眼的思考」で攻略する京大現代文

## 受講期間

3か月(3回)完成・毎月添削課題つき

## 受講費

15,000円(3回分一括払い・消費税込)

## お届け教材

テキスト：B5版約40P(解答解説別冊40P挟み込み) 3冊

## 添削課題：3回

※各月(各回)テキスト1冊、添削課題1回をお届け。

## 制作チーム

灘高等学校 小川光司先生

愛光高等学校 寅岡真也先生

白陵高等学校 西善弘先生

灘高等学校 村上秀夫先生 ほか

※所属は2005年11月現在

京大現代文が求めているのは、「採点者を説得できる答案」だ。そのためには、「解答者の視点」で洗い出した解答要素を「採点者の視点」でチェック、「解答者の視点」に戻ってまとめ上げることで説得力を高めていく必要がある。本講座では、それを具現化する過程を“複眼的思考”としてメソッド化。2つの視点で思考する力を3か月で身につけていく。

## 特長

## ●京大現代文攻略のための“複眼的思考”を身につける3ステップ

「解答要素を洗い出し、解答のコアをつくる(解答者の視点)」「採点者の目でチェック&肉つけ(採点者の視点)」「文脈を構成し解答(解答者の視点)」の3ステップで、採点者を説得できる答案を作成するベースをつくる。

## ●要約トレーニングで京大に必須の記述力を養成

解答の前提となる読解力の向上と京大に必須の記述力養成のために、要約トレーニングを実施。自分で問題文をコンパクトにまとめられる力を養う。

## ●「誌上添削」で採点者の視点をつかむ

モニター会員の解答による「誌上添削」を掲載。自己採点の参考になるだけでなく、採点者の視点、合格答案を作成する表現のコツまでわかる。

## ●より広く深い知識を身につけ、京大現代文に対応

問題文理解だけでなく、幅広い知識や教養、視点を試される京大現代文に対応できるよう、学習内容から知識・教養を有機的に結びつけて提示。また、発想法を教えるコーナー(「教養を深めるもう一步」など)も満載。

## 「複眼的思考」で攻略する 京大現代文 見本 【設問攻略トレーニング】

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

## ③ 設問

## 比喩表現に関する問題の解き方について勉強しよう。

京大の現代文では毎年のように、比喩説明の問題が出題されている。例えば、二〇〇五年度<sup>一</sup>「植物的性格」、<sup>四</sup>「存在の仕方が詩的文学的」で二題、二〇〇三年度<sup>三</sup>「不可思議な現像液のようなもの」、二〇〇二年度<sup>四</sup>「自分の持ち物を無体に取り上げられたような」でそれぞれ一題ずつ、というように毎年のように出題される設問パターンである。「比喩」とは物事を説明する場合、そのものを直接的に表現せず、ほかの物事を示して両者の共通点を推測させることで、間接的に表現する技法をいう。

要約を通じて問題文の内容が把握できたところで、設問の解答に入っていこう。長い解答が求められる設問ではまず「解答のコア（設問の要求に対して中心になる短めの解答）」を作り、それに肉付けをしていくことで解答のブレがなくなり、高得点に結びつけることができる。この問一では、「解答のコア」の作り方、肉付けのしかたについて、段階を追って細かくナビゲートしていく。思考の流れを学んで、自分自身でできるようになっていこう。

問一 傍線部<sup>一</sup>において、筆者は「我々の知性」の性格が「植物的」であると主張しているが、それはどういう意味か、わかりやすく説明せよ。（14 cm×6 行∥120～132 字程度）

- (1) 筆者は、「我々の知性」はどのようなところから生じたと考えているのか。問題文中から適切な語句を十字以内で抜き出し、解答欄を補いなさい。


において生じた。

- (2) 筆者が、日本の「風土」の代表的な性格として挙げているものは何か。問題文中より四字の漢字を二つ抜き出さない。

## 答案作成の「コツ」と視点

(1) 「我々の知性」とは「日本人の知性」のこと。傍線部を結論としたときに、その原因をどこに求めているのかを押さえることは重要。

(2) 日本の「風土的性格」を具体化してみよう。繰り返し使われている言葉に着目する。

「複眼的思考」で攻略する 京大現代文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

<<< 解答のコアを作る



--	--	--

(5) (1)~(4)を用いて、問一について答えよ。(これが「解答のコア」となる。)

ここまでで「解答のコア」の要素となる重要な切り口の洗い出しができた。これらをいったんまとめて「解答のコア」を作ってみよう。

--	--

多様可動な自然に対処して

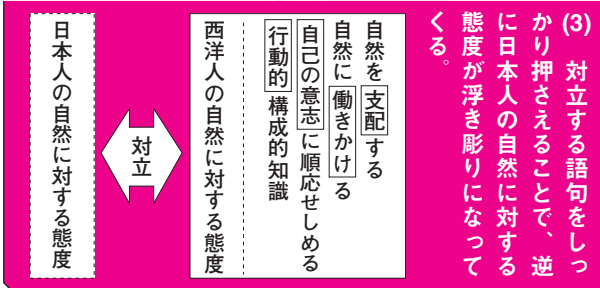
(4) どうして自然に対して(3)のような態度をとらなければならなかったのか。解答欄に従って、二十字以内で書きなさい。

--

(3) そのような「自然」や「風土」に対して、日本人はどのような態度をとってきたのか。問題文中より十五字以内で抜き出しなさい。

--

(5) この段階では問題文中の表現のつきはぎでもOK。  
 答えをまとめるプロセスが、要約のプロセスと似ていたことに気づいただろうか。要約は答案作成にも有効な学習法だ。



## 「複眼的思考」で攻略する 京大現代文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

発信  
構築

## 採点者の目

「解答のコア」を「採点者の目」になってチェックしてみよう。そこで挙がったチェック項目に答えるような言葉を肉付けしていくことで最終答案に近づいていく。  
まずは「採点者の目」について知っておこう。

形式	構成	内容	説明の十分性	
			伝わりやすい日本語	論理性
文末処理	分量の指定	⑨ 内容説明か理由説明か要約か	⑦ 主語と述語は正しく対応しているか	⑤ 文と文の流れは論理的であるか
		⑧ 指定された分量に対して答えの字数は適切か	⑥ 文と文をつなぐ言葉はわかりやすく、論理的に使っているか	④ 傍線部よりもかえって抽象的でわかりにくくなってはいないか
				③ わかりにくい言葉、筆者の造語などをそのまま使っていないか
				② 比喩をそのまま使っていないか、どのようにたとえられているのか具体的に説明できているか
				① <b>二項対立</b> の構造を理解・説明できているか

問題によって、これ以外にも採点上の観点は存在するが、多くの問題で押さえておかなければならないものを整理した。この中で最も重要なのは当然「内容」だ。特に「①二項対立」「②比喩」は京大では頻出なので、チェックポイントとしてつねに意識しておく必要がある。  
また、「⑧分量の指定」も京大の場合は特殊だ。解答欄の大きさと分量の指定がなされる。解答欄はマス目ではなく、行の罫線のみ。縦の長さは14cm程度、幅は1cm程度で一設問あたり3行〜6行程度が一般的。1行あたりの字数の目安は20〜22字程度だ。

## ※二項対立

二つの異なる事柄が、相反する関係や構造を持つて存在している状態。

前ページの「解答のコア」についてチェックしてみよう。

●問題文で述べられている「二項対立」に触れた表現になっているか。

●「植物的性格」という比喩をよりわかりやすく説明できているか。

●分量は設問の指示に合っているか。

これらが主要なチェックポイントになるだろう。



## 「複眼的思考」で攻略する 京大現代文 見本 【解答解説】

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

攻略確認  
設問

## 問一

日本人の知性は、日本の複雑で可動的な自然や風土の中で形成されてきた。そのような自然に対処して生きるためには、自然を支配しようとするよりも、むしろ自然に随順し、受動的であることが賢明な智慧であって、それは植物が自然に順応して生きようとする性質に似ているという意味。(131字)

## 採点基準 (10点満点)

- ア 「日本人の知性は、日本の複雑で可動的な自然や風土の中で形成されてきた。」(3点)
- 「日本の風土環境との交渉において生じた」「風土に根ざしている」「風土に影響されてきた」など、同様の表現でも可。
- △ 「我々」を「日本人」に置き換えていなければ1点減。
- △ 「複雑」「多様」の要素と「可動」「不断に動いている」の要素のどちらか一つが欠けている場合1点減。
- × 「複雑」の要素と「可動」の要素の両方が欠けている場合不可。
- × 「一様でない」「不動ではない」など、近代科学の見方の裏返しだけが書かれているものは不可。
- イ 「自然に対処して……自然に随順し、受動的である」(2点)
- × 「自然を暴威や恩恵としてとらえ」などは表面的なので不可。

ウ 「自然を支配しようとするよりも」(1点)

○ 「自然に働きかけようとするのではなく」「自然を自己の意志に順応せしめようとはせずに」など、近代科学の見方を棄却するものは広く許容。

エ 「生きるために……賢明な智慧」(2点)

△ 「生きるため」がないものは1点減。

オ 「植物が自然に順応して生きようとする性質に似ている」(2点)

○ どのような比喩かが具体的にわかるように、日本人も植物も自然に従っているということが説明されているものが可。

※文章として意味が通らない説明をしているもの、用語は解答にあるが、解釈として誤っているものは不可。

※表現に次のような不備のあるもの(3点を上限に各1点減)

文末が適切な体言止めになっていない／つなぎ言葉が不適切

主述があいまい、ねじれている／文法上の誤り

※誤字、脱字、送りがない、句読点などの表記上の誤りは各1点減。

同じ事項について重複減点しない。

(1) 筆者は、「我々の知性」はどのようなどころから生じたと考えているのか。問題文中から適当な語句を十字以内で抜き出し、解答欄を補いなさい。

風土的環境との交渉(において生じた。)(9字)

## 「複眼的思考」で攻略する 京大現代文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

(2) 筆者が、日本の「風土」の代表的な性格として挙げているものは何か。問題文中より四字の漢字を二つ抜き出さない。

複雑多様・動播可動(各4字)

(3) そのような「自然」や「風土」に対して、日本人はどのような態度をとってきたのか。問題文中より十五字以内で抜き出さない。

自然に随順する受動的態度(12字)

(4) どうして自然に対して(3)のような態度をとらなければならなかったのか。解答欄に従って、二十字以内で書きなさい。

生きるための賢明な知恵であったから。(18字)

(5) (1)～(4)を用いて、問一について答えよ。(これが「解答のコア」となる。)

日本人の知性は、日本の複雑で可動的な自然や風土の中で形成されたと言える。そのような自然に対処するためには、自然に随順し、受動的であることが賢明な知恵であったということ。(84字)

(6) 日本の風土および日本人の知性について、二項対立で整理をしたい。問題文中の言葉を抜き出して、次の表の空欄 a～f を埋めよ。

a 一様性    b 不動    c 持続的  
d 恒常性法則性    e 自然の支配というような観念  
f 行動的構成的知識

(7) 日本人の「受動的態度」が「植物」のどのような性質にたとえられているのか、わかりやすく説明しながら、問一について答えよ。

日本人の知性は、日本の複雑で可動的な自然や風土の中で形成されてきた。そのような自然に対処して生きるためには、自然を支配しようとするよりも、むしろ自然に随順し、受動的であることが賢明な知恵であって、それは植物が自然に順応して生きようとする性質に似ているという意味。(131字)

※本問は問題冊子で詳細のナビゲートを行っているので、解説は省略。